

地 理 歴 史

1 科目構成

改 訂		現 行	
科 目 名	標準単位数	科 目 名	標準単位数
世 界 史 A	2	世 界 史 A	2
世 界 史 B	4	世 界 史 B	4
日 本 史 A	2	日 本 史 A	2
日 本 史 B	4	日 本 史 B	4
地 理 A	2	地 理 A	2
地 理 B	4	地 理 B	4

必履修科目は、「世界史A」及び「世界史B」のうちから1科目並びに「日本史A」、「日本史B」、「地理A」及び「地理B」のうちから1科目の合計2科目であり、4単位以上を必履修としている。

2 改訂の基本方針

次の3点を基本的な考え方として改訂を行った。

- 他科目との関連をより一層重視した内容の構成を図る。
- 各科目において、課題を探究する学習を充実させることを柱として、言語活動の充実を図る。
- 思考力・判断力・表現力等を育成する観点から、各科目において、地図や年表など様々な資料を活用した学習を一層重視した内容の構成を図る。

3 改訂の内容

(1) 目標

我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深め、国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

地理歴史科の目標については、改正教育基本法の前文及び第一条の表現に合わせ、現行の目標の「民主的、平和的な国家・社会の一員として」という部分の表現が「平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として」という表現に改められた。

なお、国際的な相互依存が進む中で、自らが国際社会の形成者であること、また、自らがよって立つ平和で民主的な国家・社会を維持・発展させることについての自覚と資質を養うことが、この教科の最終的な目標である。

(2) 各科目

<世界史A>

ア 目標

近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

年表、地図、その他資料の活用を通して世界の歴史を理解することで、知識基盤社会と言われる今日の社会の構造的変化に対応していくための思考力・判断力・表現力等の育成を図ることをねらいとして、「諸資料に基づき」の部分が増えられた。

イ 内容の構成

(ア) 世界史が地理歴史科共通の必修科目であることを踏まえ、「世界史A」の導入時期の学習として、「(1) 世界史へのいきない」を新たに設け、地理的条件や日本の歴史との関連付けに留意することとされた。また、中学校社会科の内容との連続性に配慮するとともに、世界史学習の基本的技能に触れさせることとされた。

(イ) 現行では、三つの大項目を前近代、近代、現代の歴史にそれぞれ配置していたが、今回の改訂では、世界史の導入時期の学習として「(1) 世界史へのいきない」を設けるとともに、前近代と近代を合わせた「(2) 世界の一体化と日本」、現代を扱う「(3) 地球社会と日本」の三つの大項目から構成された。

ウ 内容の取扱い

(ア) 内容の(2)の「ア ユーラシアの諸文明」については、近現代史を中心とするこの科目の特質を踏まえ、ユーラシア大陸の諸文明を大観させるようにすることとされた。

(イ) 主題を設定して探究する学習においては、生徒の主体的な活動を促すために、作業的、体験的な学習を導入するなどの学習活動の工夫が求められている。また、論述、発表、討論など多様な活動を取り入れるようにし、適切な時間を確保することが必要とされ、そのためにも、年間指導計画の中に明確に位置付けて指導することとされた。

<世界史B>

ア 目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

「世界史A」と同様、年表、地図、その他資料の活用を通して世界の歴史を理解することで、知識基盤社会と言われる今日の社会の構造的変化に対応していくための思考力・判断力・表現力等の育成を図ることをねらいとして、「諸資料に基づき」の部分が増えられた。

イ 内容の構成

(ア) 「(1) 世界史への扉」では、現行の「日本の歴史と世界の歴史とのつながり」、「日常生活にみる世界の歴史」という二つの中項目に加え、「自然環境と人類のかかわり」の中項目を新たに設け、三つの中項目からそれぞれ一つずつ選択し主題を設定することとされた。

(イ) 地域世界の構成と展開については、現行の枠組みを踏襲しているが、内容の(4)の「ア アジア諸地域の繁栄と日本」、「エ 世界市場の形成と日本」や(5)の「エ グローバル化した世界と日本」などのように、それぞれの内容で取り扱う時期で

の日本の動向を世界の歴史の中に明確に位置付けるように構成された。

(ウ) 思考力、判断力、表現力の育成を重視し、主題を設定して行う学習の充実を図るため、主題を設定して行う学習を、内容の(1)から内容の(5)までのすべての大項目に置き、段階的・継続的に指導することで、歴史学習の基本的技能を習得させ、言語活動の充実を図ることとされた。

ウ 内容の取扱い

(ア) 内容の(1)では、教師が主題を設定し考察の過程を指導することとされた。

(イ) 内容の(2)から(4)まででは、追究する活動を行い、時間的なつながりや空間的なつながりにそれぞれ着目して整理し表現する技能や、資料を多面的・多角的に考察し読み解く技能を習得させることとされた。

(ウ) 内容の(5)の「オ 資料を活用して探究する地球世界の課題」では、「世界史B」の学習のまとめであることを踏まえ、生徒自身が地球世界の課題に関する主題を設定し、これまでの学習で習得した知識や技能を有効に活用して、歴史的観点から主体的に考察することとされた。

<日本史A>

ア 目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

「我が国の近現代の歴史の展開を」の部分で、「日本史A」の基本的な性格として、近現代の我が国の歴史を学習対象とすることが明確にされた。

イ 内容の構成

(ア) 近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える学習である「(1) 私たちの時代と歴史」が設けられた。

(イ) 近代の歴史を大きくとらえさせる趣旨から、近代が現行の二つの大項目から、一つの大項目「(2) 近代の日本と世界」に再構成された。中項目アでは主に政治的な視点からの考察を重視し、イでは経済的な視点からの考察を重視することとされ、さらに、中項目ウの「近代の追究」で探究し表現する学習を行うこととされた。

(ウ) 現代の歴史を大きくとらえさせる趣旨から、第二次世界大戦以降の歴史を大項目「(3) 現代の日本と世界」の中項目ア、イで扱うこととされ、さらに中項目ウの「現代からの探究」で探究し表現する学習を行うこととされた。

ウ 内容の取扱い

(ア) 資料を一層活用させるとともに、調査・見学などを取り入れるよう工夫することとされた。また、国民生活や文化の動向については、地域社会の様子などと関連付けるとともに、生活文化についても扱うようにすることとされた。

(イ) 内容の(1)が科目の導入として新たに位置付けられた。また、内容の(2)のウ及び(3)のウにおいては、資料を活用して歴史を考察したりその結果を表現したりする技能を高めることとされた。なお、内容の(3)のウは科目のまとめとして位置付けられた。

<日本史 B>

ア 目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ」の部分では、「日本史 B」の基本的な性格を示し、同じ地理歴史科の世界史や地理との関連を一層重視して、我が国の原始・古代から現代に至る歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連付けて、政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で大きく把握させることとされた。

イ 内容の構成

- (ア) 現行の導入学習である大項目(1)の「ア 歴史と資料」に加え、(2)に「ア 歴史の解釈」、(3)に「ア 歴史の説明」、(6)に「ウ 歴史の論述」を新設し、諸資料を活用した考察や表現など、歴史学習にかかわる基本的な技能を計画的に高めさせるようにした。
- (イ) 近現代の学習を重視するとともに、近世以前の歴史の展開を大きくとらえることができるように、いずれも三つの中項目で構成されていた「原始・古代」と「近世」がそれぞれ二つの中項目に再構成された。
- (ウ) 大項目ごとに、その時代の「国家と社会や文化の特色について国際環境と関連付けて考察させる」ことが明示された。

ウ 内容の取扱い

- (ア) 資料の一層の活用や、調査・見学などを取り入れるよう工夫することとされた。
- (イ) 地域社会の歴史と文化について扱うようにするとともに、祖先が地域社会の向上と文化の創造や発展に努力したことを具体的に理解させ、それらを尊重する態度を育てるようにすることとされた。
- (ウ) 内容の(1)のア、(2)のア、(3)のア、(6)のウを通じて、資料を活用して歴史を考察したり、その結果を表現したりする技能を段階的に高めていくこととされた。
- (エ) 内容の(1)のアは、科目の導入として位置付けられた。(2)のア及び(3)のアについては、原則として各時代の学習内容と関連させて適切な時期に実施することとされた。(6)のウは、科目のまとめとして位置付けられた。

<地理 A>

ア 目標

現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

「地理 A」では、地理的考察の際に歴史的背景を踏まえて学習することを重視するとともに、日常生活との結びつきを重視するため、「歴史的背景、日常生活との関連」の部分が加えられた。

イ 内容の構成

(7) 現行の大項目「(1) 現代世界の特色と地理的技能」と「(2) 地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題」とを集約するとともに、生活圏の地域調査に関する内容は新たに「(2) 生活圏の諸課題の地理的考察」に位置付けて再構成された。

(4) 主に地球規模の地理的事象や諸課題を扱う「(1) 現代世界の特色と諸課題の地理的考察」と、(1)の学習を受けて、主に生活圏などの地域規模の地理的事象や諸課題を扱う「(2) 生活圏の諸課題の地理的考察」を学習することとし、科目の内容全体を通して、地球規模から地域規模に至る諸地域について、主に主題的な方法を基に学習できるよう項目の構成が工夫された。

ウ 内容の取扱い

(7) 基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得の観点から、内容として示された項目については履修者全員が共通に学習することとして、現行の学習指導要領で取り入れられている項目間選択は廃止することとされた。

(4) 地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実することとされた。

(ウ) 大項目(2)のアについては、日常生活の中でみられる様々な地図を取り上げ、目的や用途に適した地図表現の工夫などについて理解させ、日常生活と結び付いた地図の役割とその有用性について認識させるよう工夫することとされた。

<地理B>

ア 目標

現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

地理歴史科の他科目との関連をより一層重視する観点から、「現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて」の部分が加えられた。

イ 内容の構成

(7) 内容の初めに地図に関する基礎的・基本的な知識や技能を身に付ける「(1) 様々な地図と地理的技能」が設けられた。

(4) 現行の「(1) 現代世界の系統地理的考察」の内容を一部見直し、現代世界の諸課題についても大観する「(2) 現代世界の系統地理的考察」、そして最後にそれらの学習成果を活用して現代世界の諸地域の特色や諸課題について学ぶ「(3) 現代世界の地誌的考察」の、三つの大項目により内容が再構成された。

ウ 内容の取扱い

(7) 基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得の観点から、内容として示された項目については履修者全員が共通に学習することとして、現行の学習指導要領で取り入れられている項目間選択は廃止することとされた。

(4) 地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、討論したりするなどの活動を充実することとされた。

(ウ) 大項目(3)のイについては、アで学習した地域区分を踏まえるとともに、様々な規模の地域を世界全体から偏りなく取り上げるようにすることとされた。

4 質疑応答

問1 「世界史A」における「(1) 世界史へのいざない」のねらいや内容の取扱いはどのようなものか。

ア ねらい

この大項目は、自然環境と人類の活動にかかわる主題や、日本の歴史や身近な地域の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる主題を取り上げ、世界史を学ぶ際に必要な視点や方法を示し、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付かせることをねらいとしている。

イ 内容の取扱い

世界各地の人々の生活と環境の多様性や、日本の歴史の背景としての世界の歴史など、中学校社会科の内容に配慮して、主題を設定することとしている。また、「世界史A」の導入的な内容であることを踏まえ、教師が主題を設定して考察の進め方を生徒に示しながら指導するなどの工夫が求められている。

問2 「日本史A」における「(1) 私たちの時代と歴史」のねらいや内容の取扱いはどのようなものか。

ア ねらい

この大項目は、「日本史A」の学習の導入として位置付けられており、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考察させる学習活動を通して、「歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる」ことをねらいとしている。

イ 内容の取扱い

現行の「身近な生活文化や地域社会の変化などにかかわる主題を設定し追究する学習」では、「衣食住の変化」など五つの項目を挙げ、そのうち一つをこの科目の導入として実施することとしていた。今回は、これらの題材も含め、人権、環境、情報、国際理解などの現代的諸課題のほか、新聞等の報道内容など身の回りの話題の中で生徒が興味・関心を持ちやすい社会的事象を取り上げることが考えられる。

問3 「地理B」における「(1) 様々な地図と地理的技能」のねらいや内容の取扱いはどのようなものか。

ア ねらい

この大項目は、地球儀や、地図帳に掲載されているような一般図・主題図や国土地理院発行の地形図をはじめとした様々な地図を活用した学習、及び地域調査といった学習を通して、地図が学習や社会生活で有用であることに気付かせるとともに、地理的技能を身に付けさせることを主なねらいとしている。

イ 内容の取扱い

授業に際しては、「作業的、体験的な学習」を適宜取り入れることが望ましい。例えば、地球儀を実際に手にしながらの学習、地域の景観を観察したり調べる学習、地図帳に掲載されている世界の国々に関する統計資料を加工し統計地図を作成する学習、新聞に掲載されている国別の記事を集計し図表に表現する学習などを取り入れることが考えられる。